

新潟市急患診療センターだより

第27号 2023年1月

第27号にあたって

新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症は収まらず第8波の流行がみられ、インフルエンザとの同時流行も心配される状況です。残念ながらウイルスとの戦いはまだまだ続きます。基本的な感染対策を一人一人しっかり行うことが重要なので、一層のご協力をお願いします。

今回は、インフルエンザが流行入りしたことのお知らせ、病気の知識として「腸閉塞とイレウス」と「こえん誤嚥性肺炎」を取りあげました。Q&Aには新型コロナの“自己検査”で陽性になった場合の対処方法を掲載しました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレス（QRコード）などが掲載されていますのでご利用下さい。



3年ぶりにインフルエンザが“流行シーズン入り”しました！ 新型コロナとインフルエンザの同時流行に注意

- 昨年12月下旬の感染症発生動向調査で、1つの医療機関のインフルエンザ患者数が流行開始の目安である人数を上回り、インフルエンザが3年ぶりに流行シーズン入りしたことが厚労省から発表されました。
- 新潟県では12月18日までは発生数は少なかったのですが、年末から感染者が増えており、急患診療センターでも12月28日からインフルエンザA型の患者が増えてきています。
- 年末年始に多くの方が県をまたいで移動しますので、年明けから流行が本格化すると考えられます。
- 下記の注意を守り、新型コロナと共に感染予防をお願いします。

①基本的な感染対策

新型コロナと同様に、日頃からの体温や健康状態のチェック、適切なマスクの着脱、手指消毒、換気などの基本的な感染対策の徹底が必要です。

②予防接種

インフルエンザワクチンの予防接種には、重症化を予防する効果があります。新型コロナワクチンの接種と合わせて接種をお願いします。

③事前準備

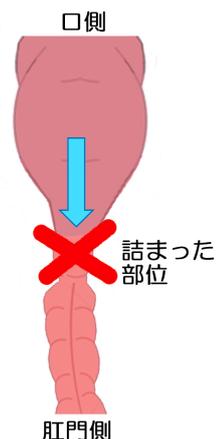
発熱などに備えて、検査キットや“解熱鎮痛薬”を早めに購入しておいて下さい。特に“解熱鎮痛薬”は売り切れも予想されるので自分に合ったものを用意しておくことで安心できます。また、電話相談窓口などの連絡先も確認しておいて下さい。



病気の知識

腸閉塞とイレウス “腹痛、お腹がはる、おう吐などがみられます”

- 胃で消化された食べ物は、少しずつ長さ6mもある小腸に送られ、さらに消化分解され移動しながら栄養分が吸収されていき、最後に大腸で水分などが吸収され糞便となり体外に排泄されます。
- 腸の中で食物や消化液などの動きが止まってしまう状態を腸閉塞やイレウスと言い、重大な腹部の病気の一つです。
- 腸閉塞とイレウスは同じ病気と混同されることも多いのですが、正確には、腸閉塞は腸管が物理的（機械的）に閉塞する場合（右図）で、イレウスは腸管が麻痺して動かなくなる場合を言います。



【症状】

- 腹痛、お腹がはる、吐き気、おう吐、排便・排ガスの停止などの症状が出ますが、原因によって症状が異なるので注意が必要です。
- 腸管が麻痺して動かなくなるイレウスの場合は、お腹がはる、吐き気、おう吐が多く、腸管が物理的に閉塞する腸閉塞の場合は激しい腹痛がみられます。

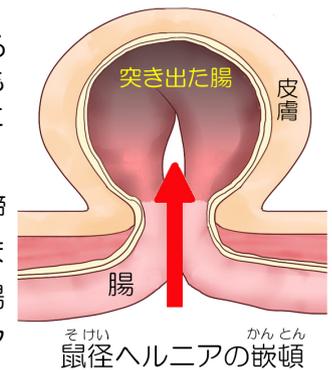
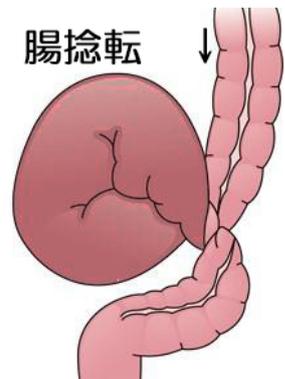
【原因】

(1) イレウス

- イレウスは、腸管が麻痺または“けいれん”することで腸の動きが悪くなり、内容物がたまり腸管がふくれることです。
- お腹の開腹手術後に多くみられますが、腹膜炎などの炎症や結石発作による腸管刺激、薬物による副作用などでもみられます。

(2) 腸閉塞

- 何らかの物理的な原因で閉塞する場合を「腸閉塞」と呼びます。よくみられる原因は、腹部の手術後に腸がくっつくこと（癒着）により、腸管が閉塞するものです。その他、大腸がんによって、大腸が狭くなったりつまったりすることや、便がつまることで起きる場合もあります。
- 絞扼性腸閉塞：絞扼とは締めつけるという意味で、腸がつまると同時に腸が締めつけられて血流が悪くなり、腸の一部が死んでしまう（壊死）ことがあります。原因としては、腸がねじれてしまい、腸の通過障害と血行障害を起こす腸捻転（右上図）、腸の一部が突き出してお腹のなかに戻らなくなる鼠径ヘルニアの嵌頓（右図）、索状物（癒着でできる、ひも状のもの）による締め付け、腸重積などがあり、緊急手術が必要となることがあります。



【治療】

- イレウスの場合は絶食と輸液、鼻から腸までチューブを入れて腸の中の内容物を吸引して圧を下げたりします。
- 腸閉塞では原因によって治療法は異なり、癒着や糞便による場合は、イレウスと同様な治療を行います。改善されない場合や緊急性が高い場合には手術治療になります。絞扼性腸閉塞が疑われれば緊急手術になります。がんが原因の場合は原則手術ですが、閉塞部分に腸管を拡げるステント治療を行うことがあります。

至急病院へ
行く

救急車を
呼ぶ

- 強い腹痛、お腹がはる、おう吐などがみられたら、すぐに医療機関を受診しましょう。
- 激しい腹痛の場合は、救急車を呼んで下さい。

ごせん
誤嚥性肺炎

“お年寄りや寝たきりの方は特に注意！”

物を飲み込むことを嚥下^{えんげ}と言い、口から食道へ入るべき食べ物や飲み物、唾液^{だえき}が気管に入ってしまうことを誤嚥^{ごえん}と言います。食べ物や飲み物が食道ではなく気管に入ってしまった場合、むせて出そうとする機能があります。しかし、この機能が弱ると、気管に入り込んでしまった食べ物などを出せず、細菌と一緒に肺にまで入り込んで肺炎を起こします。これを、誤嚥性肺炎^{ごえんせい肺炎}と言います。

【原因】

- 高齢者、脳梗塞やパーキンソン病などの神経疾患、寝たきりの方では、①嚥下機能が低下していること、②咳反射が弱いこと、③口腔内の清潔が十分に保たれておらず肺炎の原因となる細菌が多く存在すること、などの理由で発症しやすくなります。
- 睡眠中などに唾液や口腔や咽頭内容物による誤嚥を繰り返して発症するものが多いと言われています。
- おう吐などで食物などの胃の内容物を誤嚥して発症することもあります。



【症状】

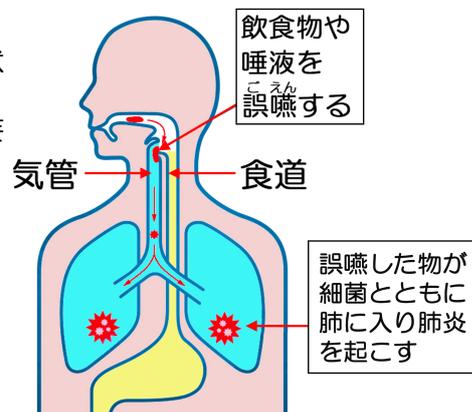
- 発熱、激しい咳、膿のような痰（黄色い痰）が肺炎の典型的な症状です。
- なんとなく元気がない、食欲がない、のどがゴロゴロ、夜間せん妄など典型的な症状がない場合もあります。

【治療】

- 抗菌薬を用いた薬物療法が基本です。
- 重症度により入院になります。
- 口腔ケアや嚥下指導も行われます。

【予後】

- 高齢者や脳梗塞などの神経疾患などで寝たきりの方にみられると、繰り返し発症し、予後不良になることが少なからずあります。



- 食事では上半身を起こし、ゆっくりと噛んで飲み込むことが大切です。
- 嚥下障害がある場合、誤嚥しやすい食物形態は避け、とろみ食なども考慮する必要があります。
- 口腔ケアにより口腔内を清潔に保つことも重要です。
- インフルエンザワクチンと肺炎球菌のワクチンも受けておくべきでしょう。
- 禁煙は大切です。



- 食事中にたびたびむせたり食後に痰が増えたりするなどの症状が現れる人は、日頃の体調の変化に注意し、上記の症状に加え、気になる症状が現れたらすぐ受診することが早期発見につながります。



- 強い呼吸困難、チアノーゼ（皮膚や粘膜が青紫色になること）、意識状態がおかしい場合は救急車を呼んで下さい。

Q & A（質問に答えて）

Q：新型コロナの“自己検査”で陽性の場合の対処方法について教えてください

A：発熱などの症状がみられ、新型コロナの自己検査キット（県配布のキット、薬局で購入した「体外診断用キット」または「第1類医薬品」と表示されているもの）で陽性となった場合の対処について、急患診療センターへの問い合わせが多くあります。新潟県のホームページもご覧下さい。

◆陽性者向けコールセンター：025-256-8593（9:00～17:00、土曜、休日含む）

【「陽性者登録・フォローアップセンター」に登録すべき人】

- ①症状が軽い（飲食ができる、呼吸が苦しくない）
 - ②65歳未満、基礎疾患なし、高度肥満（BMI 30以上）がない、喫煙習慣がない
 - ③妊娠していない
- 上記全てに該当する場合は、新潟県ホームページから「陽性者登録・フォローアップセンター」に登録して下さい。（受付時間 9時～17時、土・日曜、祝日含む）
 - ◆自己検査キット陽性判定受付部門連絡先：050-3614-6293（月曜日～日曜日 9:00～17:00）
 - ◆フォローアップ登録受付部門連絡先：0120-935-969
 - ◆状態変化時連絡受付部門連絡先：0120-935-969（24時間受付）
 - 体調が悪化時の相談は、陽性者登録・フォローアップセンターに登録していない方も相談できます。
 - 登録方法についての問い合わせは、可能な限り日中に問い合わせして下さい。

【かかりつけ医や「新潟県新型コロナ受診相談センター」に連絡すべき人】

- 症状が重い場合、上記②③のいずれかに該当しない場合、ワクチン未接種の場合、のいずれかの場合は、かかりつけ医や「新潟県新型コロナ受診・相談センター」に連絡して下さい。

◆新潟県新型コロナ受診・相談センターの連絡先

025-385-7634、025-385-7541、025-256-8275（24時間対応、土・日、祝日含む）

陽性が判明された方へ
（新潟県）



新型コロナ
相談窓口一覧
（新潟県）



診療時間



★土曜日の在宅当番医

【産婦人科】

午後2時～午後6時
(当番医はホームページ「新潟市産婦人科医会」に掲載されます)

当番医は、当センターにもお問い合わせできます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後3時～翌日午前9時 (受付時間：午後3時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

新型コロナウイルス感染流行の続くなか、新型コロナウイルスの感染拡大が起きて以降初めて、インフルエンザが全国的な流行期に入りました。行動制限も事実上なくなり、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が心配されます。インフルエンザで重症化し死亡する場合もあり、特に高齢者・妊婦・乳幼児は注意して下さい。海外を含めた人の移動が活発になってきていますので、自分の身は自分で守ることが必要になっています。

発行：新潟市急患診療センター
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
TEL 025-246-1199

新潟市急患診療センター
ホームページ
<http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会
救急疾患検索サイト
<http://www.niigata-er.org/search/>

小児救急ハンドブック
(新潟市)